

令和5年（2023年）知事年頭所感

大阪府知事

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

去年は、長引くコロナ禍に加え、ロシアによるウクライナ侵攻が世界に衝撃を与え、その後のエネルギー危機や物価高騰などが私たちの生活に大きな影響を及ぼしました。本府では、府民の命と暮らしを守ることを最大の使命として、感染症対策や物価高騰対策を切れ目なく実施し、府民や事業者の皆様とともに困難に立ち向かってきました。

一方で、大阪・関西万博の開幕 1,000 日前イベントや、3 年ぶりの御堂筋オータムパーティー、さらには、26 年ぶりに日本一に輝いたオリックス・バファローズの優勝パレードが行われるなど、大阪の街にもにぎわいが戻ってきた 1 年でした。

2023 年は、新型コロナウイルス感染症や物価高騰への対策を着実に進めるとともに、大阪府・大阪市が連携して取り組んできた成長戦略、まちづくりについて、万博をインパクトとして、これまで以上に府市一体となって大阪が成長・飛躍する土台づくりを進めていきます。

全国的に、コロナの感染者が増加しています。発熱外来の強化をはじめ、重症化リスクの高い高齢者や小児への治療・療養体制の充実など、オール医療提供体制の確立を進めていきます。インフルエンザとの同時流行に備えながら、感染症対策に万全を期すとともに、府民の皆様には、感染防止対策の徹底はもちろんのこと、早期のワクチン接種、検査キットや常備薬の準備をお願いします。

また、40 年ぶりの急激な物価高騰を踏まえ、食費負担が大きい子育て世帯を支援するため、お米等の食料を配付します。さらに、コロナ禍で孤独・孤立の問題が顕在化していることを受け、ひきこもりやヤングケアラーなどに対して、行政や民間支援機関などオール大阪の体制で取り組んでいきます。

暮らしを支えるセーフティネットを充実させながら、感染症対策と社会経済活動の維持を両立する「ウイズコロナ」を実現していきます。

大阪・関西万博の開催まであと 2 年余りとなり、いよいよ会場建設工事が本格化します。国や博覧会協会、経済界、府市が一体となって準備を加速させ、確実に万博の成功につなげます。地元パビリオンである「大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn」では、最先端の再生医療技術（iPS 細胞）を活用した『生きる心臓モデル』の展示に向けて取り組んでいます。未来を担う子どもたちをはじめ、訪れた人々が「いのち」や「健康」、近未来の暮らしを感じ、ワクワクする展示を行い、大阪のポテンシャルを世界に示す万博にしていきます。

また、10 月には G7 貿易大臣会合が大阪・堺で開催されます。万博への弾みとするとともに、世界遺産である「百舌鳥・古市古墳群」や大阪産（もん）など、大阪・堺の魅力を世界に発信していきます。

コロナや物価高騰など、依然として、私たちはさまざまな課題に直面していますが、2 年後の万博を千載一遇のチャンスととらえ、皆様とともにこの危機を乗り越え、大阪の成長を実現し、世界の課題解決に貢献する国際都市・大阪をめざします。

府市がより一層連携を強化することで、東西二極の一極として日本の成長をけん引し、豊かで利便性の高い暮らしを実感できる「副首都・大阪」の確立をめざします。

本年も、府民の皆様により一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げますとともに、皆様にとって素晴らしい年となりますようお祈りいたします。